国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部　(前期)　1／3

＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間	90分

・古生物学の知見に触発され、太古のオウムガイの化石から、四億二千万年前の月とその光を眺めるオウムガイの姿を事実として知ることの感動を綴った文章からの出題。
・本文の分量は昨年度とほぼ同じ。最初の1ページでは科学的な説明が続いており、読みにくかったかもしれない。ただし、漢字問題が出題され、説明問題は三問となって、解答欄の行数が昨年度の14行から12行に減少した。こうしたこともあり、全体の難易度は、ほぼ例年並。
・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問三がなく、全四問の出題となっている。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　典 (作者)	松浦寿輝『青天有月』
頻出度合 ・的中等	なし。
分　量 前年比較	分量（減少・変化なし・増加）
難　易 前年比較	難易（易化・変化なし・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
一	随筆	問一	記述式	標　準	漢字の書き取り問題（5題）。
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容を説明する問題（解答欄5行）。「推論」の範囲をどのように設定するかが重要。
		問三	記述式	標　準	傍線部の理由を説明する問題（解答欄3行）。「精神の営為」として「貧しいもの」であることに留意する。
		問四	記述式	標　準	傍線部の内容を説明する問題（解答欄4行）。「ここのところ」の指示内容を正確に押さえる。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
・設問の意図を踏まえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせない。
・なお、普段の学習においては、書き上げた自分の答案を音読して、解答の構成や表現が適切かどうかを確かめてみよう。文章表現の訓練の一助となるはずだ。
・漢字の設問は必ず出題されるとは限らないが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

© 河合塾　2016年

国語(現代文・古文)　京都大学　理系学部（前期）　2／3

＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間	90分

・大問二は、中世における人々の肉声や写本による通信と、物語を表現した絵画のありようについて述べた文章。
・文章は読みやすいが、解答のポイントとなる内容を解答欄にほどよく収まるようにまとめるのに工夫を要する。
・昨年に比べ、解答欄の分量が全体で1行減ったが、難易度は例年と変わりはない。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典（作者）	樺山紘一『情報の文化史』
頻出度合・的中等	『情報の文化史』は入試に頻出
分　量前年比較	分量（減少・変化なし・増加）
難　易前年比較	難易（易化・変化なし・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	評論	問一	記述式	標　準	傍線部の内容説明問題（解答欄3行）
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容説明問題（解答欄3行）
		問三	記述式	標　準	傍線部の理由説明問題（解答欄5行）

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・二は、理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。したがって、二の対策学習を特別におこなうというよりも、共通問題一のレベルに焦点を合わせて学習しておきたい。
・どのようなジャンルの文章であれ、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体から的確に把握すると共に、文脈を精確に押さえる読解力と、その内容を整理し適切に説明する記述力が不可欠である。

© 河合塾　2016年

＜総括＞

出題数	現代文　2題　・　古文　1題	試験時間	90分

・理系の問題文は、近世初頭の評論（狂言についての教訓書）からの出題であった。
・昨年と同様、解答数は3つで、現代語訳1つと、説明問題2つであった。
・和歌に関連する設問はなかった。

＜本文分析＞

大問番号	三
出　典（作者）	『わらんべ草』
頻出度合・的中等	出典・出題箇所は稀
分　量前年比較	分量（減少・変化なし・増加）　約360字（前年約350字）
難　易前年比較	難易（易化・変化なし・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	評論（狂言についての教訓書）	問一	記述式	標　準	現代語訳。条件はなかったが、解答欄が2行もあり、わかりやすくするために補いをする必要があった。「筆に及ばざる」の現代語訳などがポイント。（解答欄2行）
		問二	記述式	標　準	説明問題。 （2）「稽古と晴」を本文に即して説明するところがポイント。（解答欄3行） （3）「これ」の指示内容を本文から明らかにするのがポイント。（解答欄3行）

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。
・和歌にかかわる問題が今年は出題されなかったが、これまでに多くの年で出題されているので和歌の対策は必ずしておきたい。

© 河合塾　2016年